

やまなし

第 82 号
2013 年
7 月

衛環研だより

発行：山梨県衛生環境研究所 甲府市富士見一丁目 7-31 TEL 055-253-6721
URL: <http://www.pref.yamanashi.jp/eikanken/index.html>

平成 25 年度からスタートする調査研究課題の紹介

平成 25 年度第 1 回課題評価委員会が 5 月 24 日に開催されました。
事前評価の対象になった課題は次のとおりです。

No.	調査研究課題
1	山梨県内の環境水中における有機フッ素化合物の実態調査
2	ヒト糞便および調理環境における黄色ブドウ球菌疫学指標の解析
3	レジオネラ属菌の消毒が困難な泉質における消毒方法の検討
4	環境中より分離した自由生活アメーバの危険性の研究
5	山梨県における地衣類の分布

調査研究計画評価書

No. 1

評価実施年月日	平成25年5月24日										
調査研究課題 (部・科名)	山梨県内の環境水中における有機フッ素化合物の実態調査 (生活科学部・用水生活科)										
調査研究期間	平成25年度～平成26年度(2カ年)										
調査研究概要	<p>有機フッ素化合物であるPFOS・PFOAとその類縁物質について、県内の河川等を対象に現状を把握し実態を明らかにする。PFOS・PFOAとその類縁物質は、工業用品から家庭用品まで用途が広い。さらにこれらの物質は、水に溶けやすく、環境中で分解されにくいことから、環境への流出が懸念されている。県内ではこれまでに環境省の「要調査項目等存在状況調査」による3地点(滝沢川・相模川2地点)それぞれ1回のみしか測定が行われていない。本調査では県内の主要河川を中心に詳細な調査を行うこととした。</p>										
	評 価 内 容	評 価 点※			総 合 評 価 点※						
	①調査研究目的の妥当性	5	④	3	2	1	5	④	3	2	1
	②厚生・環境科学における学術的意義	5	④	3	2	1					
	③目標達成のための手法、計画、体制	5	④	3	2	1					
	④衛生行政・環境行政への寄与	5	④	3	2	1					
	⑤県民、社会的ニーズへの対応	5	④	3	2	1					
総合評価 コメント	<p>1 潜在的な危険性をはらむ物質の、山梨県内での分布状況把握としての調査意義を認める。</p> <p>2 目的や着眼点を整理して取り組むことを期待する。</p>										
所の対応	<p>環境水中のうち河川水についての実態把握を目的に調査を進め、県民の安全、安心に繋がる情報として活用できるよう取り組んでいきます。</p>										

※5:優れている, 4:良好, 3:概ね良好, 2:部分的な見直しを要す, 1:全面的な見直しを要す

調 査 研 究 計 画 評 価 書

No. 2

評価実施年月日	平成25年5月24日		
調査研究課題 (部・科名)	ヒト糞便および調理環境における黄色ブドウ球菌疫学指標の解析 (微生物部・細菌科)		
調査研究期間	平成25年度～平成26年度 (2カ年)		
調査研究概要	<p>黄色ブドウ球菌は、グラム陽性球菌で鼻前庭、手指等の表皮や腸管に常在している。本菌は、食品中で増殖しながらエンテロトキシン(腸管毒)を産生することで食中毒の原因菌となるが、調理施設における衛生指導を目的とした指標菌でもある。</p> <p>糞便や調理環境から当所で分離した菌株についてコアグラーゼ型別、エンテロトキシン型別、PFGE(パルスフィールドゲル電気泳動法)を行い三者の疫学指標の関連性と由来による違いについて検討し、衛生指導のための基礎資料とする。</p>		
評 価 内 容	評 価 点※	総 合 評 価 点※	
①調査研究目的の妥当性	5 4 ③ 2 1	5 4 ③ 2 1	
②厚生・環境科学における学術的意義	5 4 ③ 2 1		
③目標達成のための手法、計画、体制	5 ④ 3 2 1		
④衛生行政・環境行政への寄与	5 ④ 3 2 1		
⑤県民、社会的ニーズへの対応	5 4 ③ 2 1		
総合評価 コメント	<p>1 食中毒の予防につながる基礎的な研究として意義を認める。</p> <p>2 予防対策に活用できる形をめざした取り組みを期待する。</p>		
所の対応	<p>本調査結果が、調理従事者等への衛生指導に活用できるように取り組んでいきます。</p>		

※5:優れている, 4:良好, 3:概ね良好, 2:部分的な見直しを要す, 1:全面的な見直しを要す

調 査 研 究 計 画 評 価 書

No. 3

評価実施年月日	平成25年5月24日		
調査研究課題 (部・科名)	レジオネラ属菌の消毒が困難な泉質における消毒方法の検討 (微生物部・細菌科)		
調査研究期間	平成25年度～平成26年度 (2カ年)		
調査研究概要	<p>レジオネラ属菌の主要な感染源は公衆浴場などの浴槽水であり、衛生行政では感染を防止するため次亜塩素酸ナトリウムを用いた浴槽水の消毒を指導している。しかし、浴槽水の泉質によっては消毒効果が十分に得られないことが報告されており、効果が期待できる新たな消毒方法の導入が課題となっている。そこで本研究ではレジオネラ属菌の消毒が困難な泉質の浴槽水における消毒方法の検討を行うこととした。</p>		
評 価 内 容	評 価 点 [※]	総 合 評 価 点 [※]	
①調査研究目的の妥当性	⑤ 4 3 2 1	⑤ 4 3 2 1	
②厚生・環境科学における学術的意義	5 ④ 3 2 1		
③目標達成のための手法、計画、体制	5 ④ 3 2 1		
④衛生行政・環境行政への寄与	⑤ 4 3 2 1		
⑤県民、社会的ニーズへの対応	⑤ 4 3 2 1		
総合評価 コメント	<p>1 目的が明確で時期を得た研究課題である。</p> <p>2 公衆浴場からレジオネラをなくす対策につなげ、山梨の温泉をPRする上での科学的根拠にもつなげてほしい。</p>		
所の対応	<p>本研究結果が県内の公衆浴場のより一層安全安心に繋がるように、取り組んでいきます。</p>		

※5:優れている, 4:良好, 3:概ね良好, 2:部分的な見直しを要す, 1:全面的な見直しを要す

調査研究計画評価書

No. 4

評価実施年月日	平成25年5月24日				
調査研究課題 (部・科名)	環境中より分離した自由生活アメーバの危険性の研究 (環境科学部 水質科)				
調査研究期間	平成26年度～27年度 (2カ年)				
調査研究概要	環境中より分離した病原性自由生活アメーバ <i>Naegleria fowleri</i> (以下 Nf) の薬剤耐性、温度耐性等を調査する。それら調査結果から、生活環境における Nf の感染危険性を考察し、Nf の感染予防等に生かす。				
評価内容	5	④	3	2	1
①調査研究目的の妥当性	5	④	3	2	1
②厚生・環境科学における学術的意義	5	④	3	2	1
③目標達成のための手法、計画、体制	5	④	3	2	1
④衛生行政・環境行政への寄与	5	④	3	2	1
⑤県民、社会的ニーズへの対応	5	④	3	2	1
総合評価 コメント	<p>1 検出例の少ない感染性アメーバの特性に関する本調査は、将来の感染予防につながり有意義である。</p> <p>2 研究内容と予防面での貢献とのつながりも検討しながら実施することを希望する。</p>				
所の対応	本研究結果が、県民の安全安心に繋がる情報として活用できるように取り組んでいきます。				

※5:優れている, 4:良好, 3:概ね良好, 2:部分的な見直しを要す, 1:全面的な見直しを要す

調査研究計画評価書

No.5

評価実施年月日	平成25年5月24日		
調査研究課題 (部・科名)	山梨県における地衣類の分布 (環境科学部 大気科)		
調査研究期間	平成25年度～平成26年度 (2カ年)		
調査研究概要	<p>樹木に付着して生息する地衣類の一部には、大気汚染物質濃度に対して感受性が高い種があることが知られている(その代表的な種には、ウメノキゴケがある)。そこで、山梨県内の地衣類の分布を明らかにすることにより、大気環境を把握することを最終目的として、地衣類の調査を行なう。</p> <p>まず山梨県内各地域における地衣類の分布調査を行い、次に大気汚染に比較的弱いとされる葉状地衣類の着生が認められる地域と認められない地域において、生育環境の比較調査を行なう。</p>		
評価内容	評価点※	総合評価点※	
①調査研究目的の妥当性	5 ④ 3 2 1	5 ④ 3 2 1	
②厚生・環境科学における学術的意義	5 ④ 3 2 1		
③目標達成のための手法、計画、体制	5 ④ 3 2 1		
④衛生行政・環境行政への寄与	5 ④ 3 2 1		
⑤県民、社会的ニーズへの対応	5 ④ 3 2 1		
総合評価コメント	<p>1 環境調査と関連づけた地衣類の分布調査は発想がユニークで興味深い。</p> <p>2 環境教育面への活用も視野に入れた検討を期待する。</p>		
所の対応	<p>ウメノキゴケの分布状況をホームページに掲載し、広く公開しながら調査を進めていくことで、県民の環境への関心や、環境教育にも繋げられるように取り組んでいきます。</p>		

※5:優れている, 4:良好, 3:概ね良好, 2:部分的な見直しを要す, 1:全面的な見直しを要す